

事例報告2 学校教育の中にマナーキッズテニスを取り入れて

明るい、いじめのない学校を目指してー

青森県 ^{はちのへ}八戸市立^{にいだ}新井田小学校 教諭 藤原公浩

わたしが学校教育の中にマナーキッズテニスを取り入れた理由

マナーキッズテニスは「子どもをプラス方向に変える力」を持っているということ

テニス協会主催のマナーキッズテニスにスタッフの一員としてお手伝い

5歳から12歳の子達が、数時間のうちに変わっていく姿

本校児童の感想紹介

- ・ 生まれて以来、こんなに挨拶を言った日は初めて たぶん今日一日で200回以上は言ったと思う。
- ・ ラケットの真ん中に当たったときは快感！ 気持ちいい汗をかいてとってもいい気分
- ・ あいさつが自然と口から出るので気持ちいい。ぜひ、またやってください。
- ・ 鈴木万亀子先生のお話で心に残っていることは、おじぎは「頭を下げるのではありません。心を下げるのです」と教えていただいたこと。
- ・ 万亀子先生のお話で心に残っていることは、「残心」ということ。おじぎをした後に、相手と目が合う、ほんの一瞬の心地よさは何とも言いがたい、よい気分。
- ・ 始めのころは、挨拶しなさいと言われたから挨拶をしているという感じだった。けれど、終わりごろには、熱心にお世話してくださる方々に、心からの感謝の気持ちで「ありがとうございます！」と、大きな声で言っている自分に気づいた。

マナーキッズテニスを授業の中に取り入れる意義

鈴木万亀子総師範の「教え」が、計画的に、自然な流れで実践化されるプログラムになっている。

「礼儀・マナー」の押し付けではなく、**テニスという楽しい運動の中で「礼儀・マナー」を自然と会得できるという点**

礼儀・マナーとは・

約束を守る

挨拶のときのラケットの持ち方

順番を待っているときのラケットの持ち方

自分も仲間も、安全な行動をすること

話をしっかり聞く

開会式での講話、コーチの話を聞く

指示をしっかりと受け止めて行動する

あいさつをする

頭を下げるのではない。心を下げる
言葉を言ってから心を下げる。

「残心」目下から目上へ

後始末をする

打ったボールは自分たちで拾う

使った場所は自分たちで清掃

「いじめ」「自殺」が、社会問題化していますが・・・ 悲しいこと！

マナーキッズ・テニスが大切にしている ことができていない

集団に「いじめ」が存在するのではないのでしょうか。

みんなで決めた約束・ルールが守れない集団

話をしっかり聞けない 指導者の指示が通らない集団

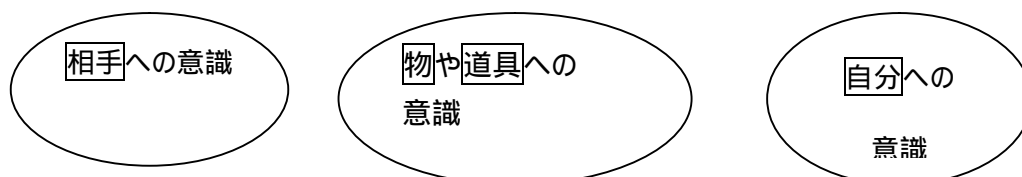
挨拶の明るい声が響かない、暗い表情の子が多い集団
教室が乱雑で、自分たちがしたことの後始末(責任)がとれない集団
挨拶の明るい声が響かない、暗い表情の子が多い集団
教室が乱雑で、自分たちがしたことの後始末(責任)がとれない集団



自分がされていやなことは相手にもしない

マナー・礼儀だけでなく、物事を本当に知るといことは、ねらい・意図・何故そうするのかを理解することです。

そのとき、マナーキッズテニスのように、身体を動かすことで、身体が開放され、こころも開放された「快」の状態であれば、なおさら効果があります。



終わりに

現在、私の学級では、授業の始まり・終わりの挨拶は、子供たちが気に入った「残心」が合言葉です。

また、私の学校は、市内有数の部活動の盛んな学校です。クラブチームではありません。本校の教員が指導に当たっています。ですから、安全であること、あいさつ、礼儀、くつの脱ぎ方、話しの聞き方、後始末等、本校の実態に即して、徹底して指導します。

なぜなら、いじめのない・楽しく・強いチームを作るには、これらのことが不可欠だということが、経験上分かっているからです。

教育活動の中に、マナーキッズテニスを取り入れたことは、本校にとって大きな実りをもたらしました。日本人が古来より大切にしてきた、「当たり前なことを当たり前にするという美しさ」を、再確認するきっかけを与えてくれたからです。本校がこれまで大切にしてきたものが、間違っていなかったことを改めて教えていただきました。

感謝。